

岩手県教職員組合カリキュラム検討委員会からの提言 「学校あるある」を見直す ⑦

子どもたちの声や姿を大切に

～私からはじめる みんなでつくろう 楽しい学校～

子どもたちの企画力と行動力を実感！

- 学年朝会では、「学年朝遊び」を学年執行部が毎回計画しています。週1回10分間、中学生が汗だくになって、ワイワイとみんなで遊ぶ！
- 行事が中止や縮小になる中、児童会が大縄大会を企画。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生のきょうだい学級でチーム編成。異年齢で遊んで挑戦して、その中からたくさんのことを学んだ子どもたち。
- 新しい係活動が立ちあがった学級。その中の一つが、「てるてるぼうず」係。外で思いっきり体を動かして遊びたい！
- 1学期には、まとめの会として、「かき氷大会」「お笑いライブ」など、子どもたちの発案と企画による学級レクの開催。
- 学年執行部が、みんなの声を聴くためにアンケートを実施し、結果をもとにした活動を展開。さらに「何かおもしろい活動」を探し続け、書評の交流、俳句投票、公開お悩み相談、廊下に掲示されるだけだった作文から脱却し、地元新聞紙「声」の欄への投書を働きかけるなど、外部への発信を試みる！読者からの応答に喜び、その人の言葉を味わう楽しみを見つけた子どもたち。

前回の「学校あるある⑥」では、いつもとは違う学校生活を送っている子どもたちの思いを大切に聴き取って、それを学校の活動に生かしていこうと提案しました。この状況の中、今まで以上に、子どもたちの自治的活動が立ち上がっている学校があります。子ども自身が自分の参画を認めながら、主体的に取り組んでいく楽しい経験が、次のステップの架け橋になるはずです。

また、自分の思いや考えを作文等に綴る、話すなど言語化させたり、ものづくりや身体表現に取り組ませたり、子どもたち一人ひとりが得意な方法で思いっきり表現できる活動も学校で保障したいものです。このことが、子どもの意見表明権（子どもの権利条約第12条）や自由に自分を表現する権利（第13条）の尊重と自己肯定感へとつながっていきます。あわせて、マスク着用によって、表情がわからない場面が多くある今だからこそ、特に言葉やコミュニケーションの大切さについて、私たち教職員も子どもたちと共に考えていく必要があるのではないのでしょうか。

